

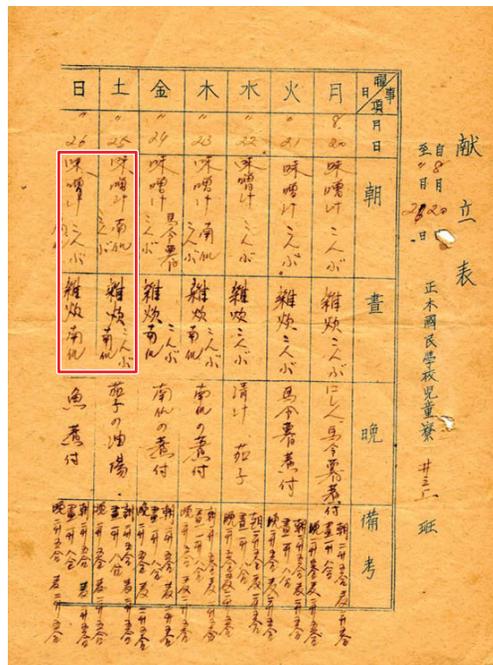
戦争と市民

せんそうとしみん

わからないことはガイドボラン
ティアさんに質問してみよう。

「14 戦争と市民」の資料で、戦争の時の子どもたちの生活について調べよう。

☆左の献立表(14-2)を見て、「 」をかいてみよう。



14-2 献立表 昭和19年8月(1944)

日	土	金	木	水	火	月	日
27	26	25	24	23	22	21	8月 月日
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 味噌汁 みそしる 南^{なん}瓜^{きん} </div>							朝
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 雑炊 ぞうすい 南^{なん}瓜^{きん} </div>							昼
魚 ^{さかな} 煮 ^に 付 ^{つけ}							晩
南 ^{なん} 瓜 ^{きん} (なんきん)・・・かぼちゃ 馬 ^ば 鈴 ^{れい} 薯 ^{しよ} (ばれいしよ)・・・じゃがいも							

これは学童疎開
に行った子供た
ちが食べていた
ご飯だよ。

毎日同じものを食べて
いたんだね。でも、量
が少なくて、おなかは
すいていただろうね。



学童疎開

太平洋戦争中、空襲を避けるため、子どもたちは親元を離れ、先生に連れられ田舎へ行き、安全なところでくらししました。これを学童疎開といいます。

この献立表は、正木国民学校（現中区正木小学校）の子どもたちが三重県に集団で疎開をしたときのものです。

※朝晩はこれにご飯がつかしました。
栄養不足から病気になる子どもも多かったようです。

☆他の展示品を見て、子どもたちの生活の様子をもっと調べよう。

●着る物はどうしていたのだろう●



物が不足していたので
お金の他に

衣 料 切 符

がないと買うことがで
きなかつた。

14-2

●日用品はどうしていたのだろう●



戦争のために鉄が
不足していたので、
湯たんぽは

陶 器

で作られた。

※軍需工場が優先され、
市民の生活は圧迫されて
いきました。

14-2 湯たんぽ

※衣料だけでなく、米や砂糖等の食料、マッチ石けんなどの生活必需品も配給制となり手に入る量が制限されました。